

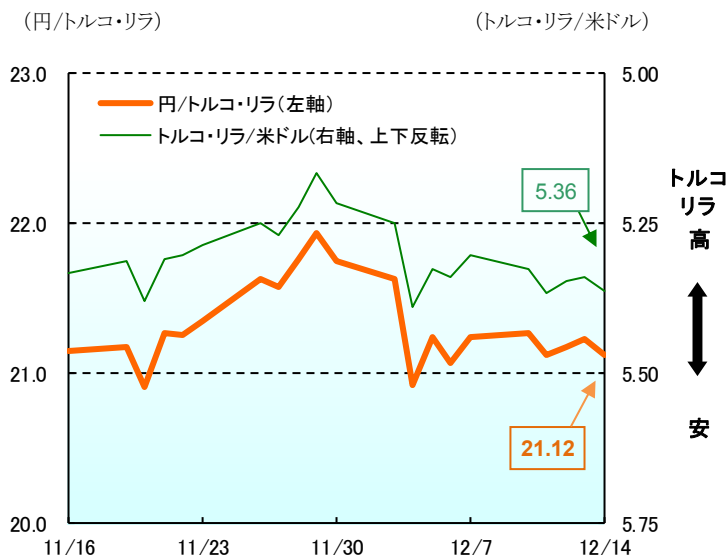
【2018年12月8日～2018年12月14日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は対米ドル・対円ともに下落しました。トルコの2年国債金利は上昇しました。

13日(現地)にトルコ中央銀行の政策金利が発表され、市場の予想通り据え置きとなりました。声明文では前回と同じく、インフレ見通しが改善するまで金融引き締め的な政策を維持すると述べていますが、足元のインフレ率の鈍化を考慮して、様子見姿勢を決定したと考えられます。トルコ・リラは米国株の下落などから、リスク回避的な動きとなり、対米ドル・対円ともに下落しました。国債金利は中央銀行の引き締め継続姿勢を受けて上昇しました。

【トルコ・リラ 為替推移】(2018年11月16日～2018年12月14日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【2】今週の見通し

トルコ市場は、内需の鈍化や政府の価格統制によるインフレ抑制効果を確認する局面が続きそうです。足元の原油価格の下落はトルコ・リラのサポート要因となっています。目先は米国株の下落に伴う市場のリスクセンチメントの悪化に留意する必要があると考えています。一方、FRB(米国連邦準備制度理事会)高官の発言から米国の利上げ観測が後退していることは、トルコなどを含む新興国市場にとっての追い風と言えます。

【トルコ 金利推移】 (2018年11月16日～2018年12月14日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>